

教育実習に向かう心構えについて

都立日本橋高等学校 高橋 直子

はじめまして。高橋直子と申します。どこかで聞いた名前だと思いかもしれないですが、病院や銀行で呼ばれると、みんな一斉に私のほうを見て、次の瞬間がっかりされる（笑）。でも、今の高校生にこの話をしても少し時代がずれているものですから、あまり喜んでくれないですよ。ね。「漢字が違うよ」という話をして、年度当初の授業を始めたりしています。

現在、東京都立日本橋高等学校で国語科の教員を務めています。私が教壇に初めて立ったのは今から 35 年前です。ですから、年齢はたぶん皆さんの親御さんより少し上くらいで、この秋で 57 歳になるので、あと 3 年ちょっとで定年退職を日本橋高等学校で無事に迎えたいと思っています。

日本橋高等学校は、日本橋ではなくて、京成曳舟駅が最寄り駅です。職員室からスカイツリーが見える位置にあって、墨田区在住の生徒がいちばん多く、下町のような雰囲気の学校です。

皆さんはこれから教育実習に臨まれるわけですね。受け入れ先はもう決まっているんですか。打ち合わせに何回か行っていらっしゃるわけですね。教材は決まっていますか。授業でやる内容はだいたい決まっているんですかね。まだ決まっていない？

手を挙げてもらっていいですか。中学校に行く方はどのくらいいますか。多いですね。高校はいかがでしょうか。半々くらいですか。ありがとうございます。母校に行く方はいますか。あっ、ほとんどなんだ。受け入れても

らって、よかったですね。いま教育現場はめちゃめちゃ忙しくて、実習生にかまっている暇なんか少ないというのが正直なところなんです。

教員を 35 年やっていますが、教育実習に来た学生さんを実際に指導した経験はあまりないんです。そういう意味では、本当にお役に立てる話ができるかどうか不安ですが、本校は新採の先生が多い学校で、若い先生の指導教官みたいな役割を去年やっていたんですね。だから、そのあたりの体験をもとに、皆さんのお役に立てるようなお話ができればと思っています。

（１）教材研究を充分にしておく

どんなことが不安ですか。実際に行う授業の範囲は決まっていますか？ 言われるのを待っていないほうがいいですよ。

向こうは「連絡します」と言っているけど、忙しくてそれっきり忘れてしまう人が結構多いので、遠慮しないでこちらからどんどんアプローチしたほうがいいと思います。

それから教材も「教科書はこれを使っています」と言われたら、ご自分がもし得意でやりたいのがその中にあるようだったら、「先生、これをやらせてください」と言ったほうがいいです。

だいたい 3 週間ですよ。たぶん最初の 1 週間はいろいろな先生の授業を見学します。国語に限らず、ほかの教科の先生の授業も見てください。いろいろな先生の授業を見るこ

とができるのは実習生の特権です。いろいろ学べるところがあると思います。

それからホームルームの担当もたぶん決まるとし、出身校に行かれるのだったら、クラブ活動の面倒もみるような形になるかもしれないので、とにかく学校にいる時間は自分の五感を全開にして積極的に見てください。観察することでいろいろ学べることがきっとあると思います。

教材が決まったら実習が始まるまでの間に、教材研究は思いっきりやってください。現場に入ってしまったら本を読んでいる暇はないかもしれません。だから、実習が始まるまでの間に、その教材に関する専門の論文を読んだり指導書を調べたり、できることはみんなやってください。

きょう私は指導案の書き方なんて全然準備してきませんでした。ごめんなさい。皆さん、授業でやっていますか。では、大丈夫ですよ。ね。正直言って、指導案が書けたからといって、それで授業がうまくいくかといったら、関係ない。関係ないと言ったら言い過ぎだけれども、指導案のとおりにはいかないのが授業ですから。指導案はあくまでひとつの目安であって、もちろん骨格を思い描いて、こういうイメージで授業をするんだというのは準備としては必要だけれども、それがうまく書けたからといって、授業がうまくいくわけではありません。

東京都の場合は、指導案のひな型があるんです。枠が決まっているんです。新採の先生に研究授業の指導などをすることがあって見せてもらったりするのですが、東京都の場合はその枠の中を埋めていけばできてしまうような、ワークシートみたいな感じの指導案です。問題は自分が何を生徒たちに伝えたいかをはっきりさせることだから、指導案は学校の授業で教わったとおりに書ければいいのではないのでしょうか。

(2) 周りをよく観察して

まず、五感を全開にして、まわりをよく観察してください。私は高校一筋できたので中学校はまったく知らないのですが、中学校のほうが親も生徒も大変だと思います。です、のつけからこういうことを言っはなんですが、将来自分はこの場で労働者として働けるかということも考えながらやってみてください。

過酷な部分もあるから、なかには心が折れてしまう人もるので、実習期間で無理だと思ったら、別の可能性を探るのもありだと私は思います。私のまわりでも新採の方が辞めてしまうといったことがありました。

私が新採になった 35 年前は、新採は最初は教育困難校か島しょに赴任したんです。私の場合、最初は夜間の定時制高校だったのですが、その頃は校内暴力の嵐が吹き荒れていて、工業高校で大量の中途退学者を出して社会問題になったりした頃なんです。トイレのドアがろくについていないような荒れた定時制高校が最初で、カルチャーショックが大きかったのですが、そういうことで辞めてしまう新採の方も結構いたらしいです。それで東京都教育委員会は、最近、新採の人を 2 人、3 人と複数で送り込んでくるんです。

うちの学校も新採が多い職場で、毎年 2 人は一緒に来るんです。そうすると、ひとりだとなかなか悩みも言えないけれど、同期だから、結構励まし合ってやっていけるんです。それで定着率を上げる工夫をしているのだと思います。

ここ数年、東京都で見た感じでいうと、四年制大学を卒業してすぐ教壇に立っている人を私はほとんど知りません。時間講師や産休・育休代替を経験したあとで専任の試験に受かって来たり、あるいは民間企業で数年間まったく違う仕事をやってきて、どうしても教師になりたくて試験を受け直して入ってき

たという方が多いです。

今の若い方は優秀な方が多いです。生徒の対応の仕方もそつがないし、パソコンはもちろん私なんかよりよっぽどできる。私はもっぱらパソコンは若い人に教わっています。だから、皆さんも、このまま現役で教員採用試験に受かって、すぐ教壇に立てるといふようにはいかないかもしれないけれども、そうやって頑張っている人も多いので、ぜひ努力は続けてほしいと思います。

(3) 靴や服装について

それから実際の授業をするにあたって、皆さん靴はどんなものを履いていきますか。女性の方はスニーカーなどですね。教育実習に来たら、どんな靴を履くのがいいと思いますか。下手すると1日5時間立ちっぱなしですから、それに耐えられる格好を考えてください。もちろん連続ではないけれども、1コマ50分の授業で、時間が詰まっていたらそのくらいになります。だから、ハイヒールはやめたほうがいいです。おしゃれでプライベートで履くのはオーケーだと思いますが、現場で疲れない服装と靴を選んでくださいね。

学校によっては服装指導が厳しくて、茶髪なんてとんでもないとか、ピアス、化粧品は絶対だめとか、あります。うちの学校は何回か注意して直らないと強制的に下校させ、「直してこい」と指導するのです。

学校の先生というのは、私も本心を言うと、服装なんて個人の自由だから、いちいち細かいことは言いたくないのですが、髪の毛を染めたり化粧が濃くなってしまうと、学校がめちゃめちゃになってしまうという恐怖感をもっている人が結構多いんです。特に生活指導を長年やっている方などはそうで、ものすごく厳しくしようとする。

ということは、女の先生でも髪の毛を染めたりピアスをしったり化粧が濃かったりす

るのは、学校によっては「えっ」と思われるかもしれない。私はあまり気にしないのですが、むしろ今は若い先生の中に自主規制してしまう人が多いので、ちょっとびっくりします。

学校によっては、ピンクのシャツを着ていたら校長から注意されたところもあるとうわさでは聞いているのですが、私は別にスーツ、ネクタイで行けとは言わない。だけど、それなりの服装というのがあるじゃないですか。うちの学校は、パーカーはだめだと言っているんです。だらしく見えるからですね。学生服をちゃんと着て来いと。カーディガンも色が決まっているんです。

だから、多くの人は出身校だから気心が知れていて分かると思うけれども、校則を見せてもらって、それにあまり外れた格好をしたりするのはよくないかもしれない。迷ったら、担当の先生に相談してください。髪の毛、化粧、ピアスはそんな感じです。そして疲れないものを選ぶ。履き物は、うちの学校は男性の方はスニーカーを履いている人が多いですね。だめなのは、スリッパやつかげです。なぜかという、何かあったときに走れないじゃない。

学校って、何かあるかもしれないんですよ、普段は平穩無事でも。いつ大きい地震が来るかも分からないし、事故、事件、不審者が急に入り込んでくるということも、ないとは言えない。

そんなときにハイヒールだったり、学校で借りたスリッパを履いていたりしたら、動けないです。

(4) 授業規律について

では、どんな授業が理想かという、皆さんが今まで受けた授業でいちばんよかったと思う授業を、どういうところがよかったのか一生懸命思い出して、それを再現するように

するのがいいと思います。

私が受けた授業でよかったなと思うのは、先生の語り口に魅力があって、本を読むって、小説を読むって、こんなに面白いんだ、こういう考え方があるんだと、そういう発見ができる授業がとても面白かったです。私は一生懸命それを目指してやっているつもりですが、うまくいくときもあるし、いかないときもあります。

楽しくて、時間がたつのが早く、気がついたらチャイムが鳴っていたなんて、最高ですね。今までいろいろな実践記録が出ているので、そういうのをお読みになるのもいいと思います。

もう少し具体的に考えてみましょう。まず最初に「学習規律」です。さすがだなと思ったのですが、私が入ってくるまでは飲み物を飲んでいたり、サッと片付けたり、ふたをしたりしましたよね。

私は自分が授業を持っていて、いちばんやりにくいと思うのは体育の後の授業です。みんな疲れてしまっていて、一生懸命やれば当然疲れますよね。皆さん実習があるのは6月くらいでしょう。暑いでしょう。そうすると、飲んでいるわけです。そして脱いでいるわけ（笑）。

おまけに今の子はおしゃれだから、整髪料やスプレーみたいなもので教室の中においが充満している。若いにおい、スプレーのにおい、飲み物のにおいが混ぜこぜになっていて、ウツと思うようなところに入って行って、そして始めるとクタクタになってしまうので、とてもやりにくいんです。

私は、注意は最初にまとめてするんです。はい、飲み物しまつて。はい、食べるのをやめて。もう休み時間は終わったんだから。はい、教科書、ノートを出して。はい、携帯は電源を切って、かばんにしまつて。それだけ一気に言って、あとは注意しない。

よほど目に余るようだったら、スーッとそ

ばに行つて、「ほらほら、携帯しまつて」とやりますが、学校によってルールが違います。前の学校は、携帯持ち込み禁止の学校だったんです。これは大変で、見つけたらいちいち取り上げないといけない。だって、見過ごせないじゃないですか。みんな持ってきてやりたいんだから。それを生徒は「取られた」と言うんですが、「何でおれが取られて、あいつのは取らないんだ」となっちゃうんですね。すごいいやな雰囲気になるでしょう。

前の学校は、そういうことがあるから、生徒会が運動して、「携帯は持ってきてもいい。ただし、使えるのは昼休みと放課後だけ」というルールをつくったんです。それでわれわれのストレスはぐっと減りました。休み時間にやっても取り上げなくてよくなった。

でも、今の学校はそういうルールがなくて、みんな持ってきて見放題なんです。ちょっとこの意味、調べてみようかというのと、携帯を取り出したりするので、それはやめてねと、そういう感じでやっているのです。

学校に行ったら生活指導のルールは見ておいたほうがいいですよ。自分がどんな指導をしなければいけないのか。実習生でも先生だから。正直言って、私は生徒の携帯は触りたくないです。トラブルになるので。

あともうひとつ、教師というのはその授業を仕切る責任があるんです。だから、リーダーシップをとるとというのが授業での教師の役割だと思います。自分がリーダーになって、この時間は自分の責任でやるんだという心構えでやってください。

（5）立ち位置や声について

教室での立ち位置ですが、全体に向けてしゃべっているときは、この位置に立つと皆さんの顔がだいたい見えるので、前の真ん中ですよ。板書したときは、板書が皆さんから見えるように適宜ずれて、生徒を指名したと

きは、あてた生徒の対角線上に立つ。生徒が発表しているときは、後ろに行って、後ろから見るように動きます。

皆さん、授業をはじめてやった時、いちばんよくないのは教壇にしがみついたまま、そこから離れないで終わってしまうこと。最初、慣れないうちはしょうがないと思うのですが、しがみついてしゃべりっぱなしで終わるのは、生徒も退屈するので、気をつけてください。

それから板書のやり方は勉強されましたか。板書の練習はしましたか。板書については、実際にやってみないと分からない。だから、ここでいくらいろいろ言っても量の上の水練で、実際にやってみないと分からないことが多いです。また経験してから振り返ってみてください。

それから話し方。緊張していると、すごく早口になってしまいます。だから、ゆっくりしゃべるように気をつけてください。

ここに来る前に、学生さんにこういう話をしなければならぬんだけど、どういうことに注意したらいいでしょうかと、友人や先輩に相談したんですね。すると、私はもともと地声が低いんだけど、年を取ってくるともっと声が低くなるので、暗くて冷たい感じになってしまうから、なるべく高いトーンで明るくしゃべったら、と言われました。持って生まれた声の質があって、私なんかうらやましいなと思うのは、別にたいして努力しなくても、高くてきれいな声をもっている方は、張り上げなくても後ろまで届く。だけど、私みたいに低くて、そんなに澄んでいない声だと、ものすごく意識してしゃべらないと通らない。それで下手すると、張り上げすぎてのどをやられてしまうんです。

そうしないためにはどうしたらいいかというと、腹式呼吸です。ここ（咽）から出すのではなくて、おなかから出す。慣れるまでは結構時間がかかります。ここで絞って出すと、とてもつらいです。

生徒がうるさかったりすると、どんどん声を張り上げないと届かないで焦ってしまうのね。そうすると疲れる。怒鳴っても、そのときは生徒はビクとなるけれども、またすぐ元の木阿弥なので、逆に注意を集めようと思ったら、だんだん声のトーンを落としてみるとか、指示を出すときはわざと語尾を弱く言うとか、いろいろ工夫してやってみてください。

「やりなさい！」と言うと、上から目線に感じて逆に反発されてたりもします。話し方もいろいろ工夫し、またいろいろな先生のいろいろなやり方を見てください。

なるべくなら、怒鳴りたくないんですね。教師って感情労働だから、このようにしたいなと思って、相手がそのとおりに動いてくれないとけっこうイライラするんです。「うるさいぞ、静かにしろ」と言ってしまうのは最低だなと思うから、そのようには言わないで、怒るのではなくて叱るという気持ちでできたらいいですね。

それから机間巡視ですが、作業をやらせていて、「分からないことあったら聞いてね」と言って回っていると、「先生」と聞いてくる場合がある。そうするとコツとしては、そのやりとりは1分以内で終わらせる。それで収めて、全体に返せることは全体に言う。それもひとつのテクニックです。ひとりの子にあまり長いことかかっていると、まわりがワイワイしてくる。

それから殺し文句を用意する。私が今いる学校では生徒に家庭学習の習慣はない。それから漢字を書くのが苦手という子も多いので、私が今使っている殺し文句とか決まったフレーズは、ひとつは「感想を書いて」と言ったときに、量より質ではなくて、「私のは質より量だからね」と言っているんです。

罫線が8行あったら、「5行以上書いてね」と具体的に言う。「できるだけいっぱい書いてね。私は質より量で評価するから」と盛んに

言います。そうすると真面目な子は一生懸命書いてくれます。

(6) 授業で生徒が自由に発言できる 雰囲気

それからもう一つは、今の子どもたちはいじめられている経験って、壮絶なものがあるんですね。いじめたり、いじめられたり、あるいは傍観者だったりという経験を生々しくしてきている生徒が多い。

私の高校ではそういう雰囲気はないのだけれども、それで傷ついている子が多いのかなと思うときがあります。どういうことかという、こうやって一人ひとり聞いていくじゃないですか。そうすると言わないんだよね。黙っちゃうの。今まで隣近所としゃべっていた子でも、「〇〇さん、どう思う？」と言うと、貝になっちゃうんです。もう1回聞くと、死にそうな声で「分かりません」という反応が返ってくるんですね。

私の今までの授業の進め方というのは、自分で質問を用意していて、次々に畳み掛けて聞いていくというやり方だったんです。反応があれば、それを受けてキャッチボールをして、授業を進めていくというやり方を長年やってきたんです。ところが、ここ数年、特に今の学校に移ってからもう3年目ですが、その答えが返ってこない。

困ったな、これは何なんだろうとちょっと悩みました。生徒は間違った答えを言って私に訂正されたり、ほかの子に違っているじゃないかという目で見られるのがすごくいやみたいです。それで今まで結構傷ついてきたんじゃないかと思うのです。

それで、わりと明るくて目立ちたがりやの子がいるクラスでは、私が何か言うと少し反応してくれるので、すかさず、「私の授業は言ったもん勝ちだから、何か言ってくれたら、それをすごく評価するから」と進める。少し

ずれていても、トンチンカンなことを言っても「今の、いいじゃない」と、それにすぐ乗っかって反応してくれるように、一生懸命雰囲気づくりをしているところです。うるさいクラス、私語の多いクラスも授業をやりにくいのも、もっとやりにくいのは反応のないクラスです。何か言っても沼のようにシーンとして、何か投げても底に沈んだまま浮かび上がってこない、そういうクラスがいちばんやりにくい。トンチンカンな反応でも、何か言ってくれたほうがいい。

生徒も失敗したり、間違った答えを言って恥をかくのがすごくいやで、「そこは違う」みたいな言い方をされたらプライドが傷つくから、そのへんを大事にして授業を進めたいと思っています。

皆さん自身も、失敗するのは当たり前だから、失敗を恐れないで、むしろ失敗してしまったら、失敗したことをこれからどうやって生かすのかということで、前向きに考えてください。立ち往生してしまったら、生徒が教えてくれるから。先生、そこは何かだとか言ってくれるから。生徒って結構やさしいですよ。

まずいのは、間違ってしまったと認めて、生徒に言われたのに、「それはそうも言うから」とごまかすのがいちばんまずいですよね。そういうことをやっていると信頼を失っちゃいます。

私も国語の先生なのに漢字を間違えて書いたりしたことが何回かあって、今思い出すと顔から火が出るほど恥ずかしいとか、穴を掘って入りたくらいの経験もありましたが、「間違えた。ごめんね、今度から気をつけるから」と言えば、生徒はフーンという感じで許してくれるし、そういうところは率直に言えば大丈夫だと思います。ごまかしたり無視したり、そういうのはよろしくありません。

(7) 生徒の思いやプライドを大事にする

それから、生徒の問いを大切にすることです。つまらないことでも聞いてきたら誠実に答えるのがポイントです。皆さんが、自分の学んできたことを吐き出すので精いっぱい、ゆとりがないと生徒の反応を拾うのは難しいかもしれないのですが、お勧めは生徒に書かせることです。

あまりいっぱいだと生徒も負担に感じてしまうだろうから、教材を最初にザッと読んだら、「感想を書いて」といって、A6の半分かB4の4分の1くらいの紙でいいと思います。縦書きでも横書きでも書き方を指定して、「自由に感想を書いて」と言うと、けっこう書いてくれます。

私がよくやるのは、小さい紙を用意して感想を書いてもらって、いいのはみんなに紹介する。ただ先ほども言ったように、誰さんのがいいとか、名前を言われるのはすごくいやがる子が多い。でも、こっちは名前が分かっていないと困るので、裏に名前を書いてもらって、表をつぎはぎしてコピーして、「ほかの人はこう書いているんだよ」と配ってあげると、それは結構読みます。そうやって返してあげるといい。

それから先ほど、教材分析は思う存分やってくださいと言っただけけれども、それを全部しゃべろうとしないですね。それは自分の中に大事にしまって温めておいて、いつか花開くときもあるから、授業ではその10分の1くらいしゃべれば充分です。しゃべり過ぎない。生徒に答えさせる、考えさせる、そっちの工夫をすることのほうが大事だと思います。

それから生徒を集団としてとらえると言ったのですが、授業が終わったあとには、ああだこうだ聞いてきたりするのに、授業中は何も言わないとか、結構いるんです。それは集

団の中の力関係が働いていて、みんなが見ているところでは発言できないとか、そういうのがあるんです。

いま3年生のクラスを持っているのですが、そのクラスの雰囲気ということで言うと、そのクラスは私が誰かあてて違った答えを言ったりすると、ほかの子がすかさず「おまえ、バカ」「死ね」とか、それで死ねと言われた子が「てめえ、ぶっ殺すぞ」と言ったりするクラスだったの。

これはまずいなと思って、「日本というのは言霊の幸（さきわ）ふ国といって、言葉に魂がこもっているんだから、バカとか死ねとか殺すなんて言ったら、本当にそうになってしまう。あなたは友達を本当にそうしたいと思っているの。思っていないでしょう。だったら言わないで。」と最初に言いました。そうしたらその次からは少なくなりましたね。

そういうのはクラスの雰囲気を左右する重大な場面だと思うから、そこはやめようと真面目に言いました。ほかの子は聞いていて絶対にいやだと思っているから、その子たちだけのやりとりじゃないから、そういう雰囲気づくり。学習規律も大事だけれども、ほかの子の発言をバカにするようなことはやめようと言うことは大事だと思います。そこは教師がリーダーシップを取る必要があります。

(8) 大事なことは何かを自分で考える

もうひとつ、今年新採の先生が「先生、これ、どういうことでしょうか」とメモを持ってきて私に聞くんです。メモになって書いてあったかという、彼は1年生のクラスの副担任なんですけど、担任が出張で出かけたので、帰りのショートホームルームと掃除の指導を頼むというメモだったんですね。その中に、「掃除は何班にやらせてください。ごみ捨てはジャンケンで勝った生徒にやらせてください」と書いてあったんです。

彼はそれを見て、「先生、これはどういうことでしょうか」と困った顔をして私に言うから、私は彼が何に困っているか、とっさに理解できなかつたんですよ。彼は何に困っていたと思いますか。彼の次の発言で、私はやっと分かったのね。「先生、今の生徒って、ごみ捨て、喜んでやるんですか」と聞くから、これは担任の遊び心で、ジャンケンをやって、負けた子がマイナスのイメージで嫌い、汚い、やだと思ってやるのではなく、勝った子にあえてやらせて楽しくやろうと言っているんじゃないのと言ったら、そうなんですかって。

でも彼自身、ごみ捨てって罰ゲームだと思っている。だから、そんなことで言うことを聞いてくれるのだろうかと不安に思ったみたいで、担任の先生は遊び心でこう言っているんだと私は思うけれども、先生が心配だったら先生のルールでやればいい。要は、ごみが捨ててある状態にしてくれと言っているだけなんだから、ごみはジャンケンで勝った子がやろうが、負けた子がやろうが、そんなのは構わないと。

そのあと「どうなった？」と聞いたら、そのクラスは普段から勝った子がごみを捨てに行くという独自のルールが出来上がっていたらしくて、「ジャンケンして勝った子がごみを捨てるんだよ」と言ったら、すんなりと「勝っちゃった」と言って持って行ってくれたと言っていました。そういう遊び心も大事だと思います。「先生、〇〇がさぼりました」なんていちいちチクリに来るようなクラスって、いやですよ。

(9) 国語の授業——文学的な香りを

国語の授業の工夫という点では、私は授業の最初にみんなに文学的な香りを少しかいてもらいたいというつもりで、短歌や俳句を紹介しているんです。「茶髪批判しといて白髪染めている」というのは、学校の先生が詠んだ

川柳ではないかと思うのですが、とてもグサツときたので生徒に紹介したら、これは結構受けました。

最初に書いてあるほうは、今週の朝日歌壇に載ったものなので、まだ生徒には紹介していないのですが、ちょうどきょうこの話をするというので、まるで皆さんのことを詠っているみたいだなと思ったので、載せました。

「教壇に立って愕然 私たちの居眠り、内職、丸見えでしたね」愕然のあとがひとマス空いているんですね。愕然とした感じがよく出ていると思います。これは今度、皆さん経験すると思います（笑）。

最後に、こんなとき、どうしますかというのを私から皆さんに聞いてみたいと思って、問題を3つ用意しました。ちょっと考えてください。隣近所の方と相談していただいて結構です。

ひとつめ。一生懸命授業をやりました、説明しました。そうしたら説明している途中で生徒が突然、話の腰を折るかのように「先生、それ、試験に出るの？」と聞きました。何と答えますか。相談して考えてください。

実際の現場ではこんなに考えている余裕はなくて、パーンと投げられたらパーンと打ち返さないといけないんですよ。何とお答えになりますか。

「出ないと言ったら、どうするの？」と逆に聞き返す。

「じゃあ、出ないんだ」と言われたら？ 出さないんだと言われたら？

それで引いちゃう。

結構生徒はこだわりのよね。そこはこだわる。「出るか出ないか、それだけ言って」とか（笑）、そんなふうには迫られたりするのよね。いかがですか。

出ないけれども、すごく大事なことだよって。

なるほど。ほかに、こういう答えはどうだという人はいますか。

私はそのときに何と言ったかと言うと、「あ

あ、そうか。いいところに気がついてくれたね。考えていなかったけれども、検討するわ」と言っちゃったんです(笑)。そしたら、「おまえ、よけいなことを言いやがって」という雰囲気になりましたね。

皆さんは実習生だから、「僕が問題を作るのではないから、担当の先生と相談して、こういう貴重な質問があったということを伝えておきます」とか言えがいいんじゃないですか。だから、言われたら、瞬間的に打ち返すの。瞬発力が大事。

それから悪口を言われても、スコーンと打ち返すのが大事。このあいだ、私のこと、「ババア」と言ったんだよ。「ん、うん?」と思って、ババアって差別語だからね。それで「懐かしいね。私も若い頃はよくババアと言われたんだよね。でも、ババアにババアと言ったって悪口にならないんだよ」と言ったら、シーンとなっちゃいました(笑)。そうしたらその子もなかなかたいしたやつで、「じゃあ、クソババア」と言ったんです。「あなたは語彙が豊富ね」と褒めておきました(笑)。

ふたつめ、一生懸命授業をやって、指導案どおりに授業が進みました。きょう言うべきこと、みんな言っちゃいました。板書も完璧。気が付いたら、5分時間が余っています。どうしますか。聞いてみましょう。

自分が生徒だったときは、あと5分のときに次の予習とか詰め込まれるといやだったなと思う。

生徒からの要望だと、次に進まれるのはいやです。いかがでしょうか。

宿題の指示。

連絡事項。生徒の立場だったら、次に進まれるのはいやですねと言ってくれた方がいます。それから宿題などの連絡事項の時間にする。あとはどうですか。

その作品について、ここが面白いよねという話をする。

なるほど。自分の思いを語る。いいですね。

ほかはどうですか。

これはいろいろな場合がありますよね。正解はひとつではないから、きょうはみんなが協力してくれたから5分早く終わったよ。じゃあ、これで終わりにするかな。でも、隣はまだ授業をやっているから、静かにしてね。ベルが鳴るまで、教室の外に出ないでねと、自分だけそっと消えるとか(笑)。それは実習生はなかなかできないと思いますが。

それから先ほど、感想を書いてもらうといよいよねと言いましたね。そのための小さい紙をいつも自分で持っているの。それでもし時間が余ってしまったら、最後の5分で配って、「きょうの授業の感想を書いて」。

それから作品についての思いを語るというものもあるし、いろいろできますよね。だから、うわーっ、5分余っちゃった、どうしようと、パニックに陥らないでください。何とでもなりますから。もう一回、作品を最初から読むというのものもあるしね。復習だよと言って、朗々と読んで聞かせてあげてもいいんじゃないですか。

もちろん予定通り、チャイムが鳴るのとびったりで終わるのが理想的かもしれないけれども、そんなふうにはいかないから、臨機応変に対応できればいい。臨機応変というと、すごく立派な四字熟語ですが、行き当たりばったりで何とかかなと思います。行き当たりばったりで何とかかなるくらいの力をつけておけばいい。教材について十分研究しておくとか、それが自信につながるから。

最後です。生徒ともそこそこ仲良くできました。いよいよ教育実習は終わりです。生徒が寄ってきて、「先生、携帯の番号教えて」。どうする? 相談して。

では、聞いてみます。どうしますか。

携帯の番号、教えてはいけないことになっていると断ります。

「事務所通して」ってギャグで(笑)。

いかがでしょうか。どういう話になってい

ますか。

冗談で返す。

どんな冗談？

僕、携帯持ってないんだ。

なるほど。

雰囲気的に、そのまま教えてしまう人はいないみたいだね。それはさすがにいないよね。それがいいと思います。

でも、「教えない」といきなり言うとか角が立つから、「学校を通して連絡して」。指導教官の先生の名前を言って、その先生を通して連絡をしてくれればいから。あるいは冗談で返す。「おれ、携帯持ってないから」。

実は私も聞かれて、「私、携帯持ってないから」というと、ウソだろうと言われるんですね。要するに先生は教えたくないから、そういうウソをつくんだと言われるんだけど、本当に持ってないんです。「えっ、今どき？」と言われて、連絡はどうするのというから、家に固定電話があるから留守電に入れておいてもらえば、ちょっと反応は遅れるかもしれないけれども、それで連絡がつくからという、フーンで終わりですね。

私は自分が携帯を持っていないくらいだから、そういう方面はまったく暗いのですが、写メで撮ってブログで流すとか、今いろいろあるじゃないですか。あれも気をつけたほうがいいです。どのように名前が使われて個人情報が出てしまうか分からないので、それなりの自分の個人情報に関する管理は気をつけてください。

東京都の教育委員会はそういうのをチェックしています。例えば本校の生徒が未成年で居酒屋で飲酒したということを、その子がツイッターか何かで流したりすると、「これ、おたくの生徒ではないですか」とチェックが来るんですよ。私はそっちのほうがよほど不気味だと思うのですが。そうすると指導せざるを得ないのでね。しかし、私はそれもどうかと思うんです。学校の管理下でない時間帯

に生徒がやったことについて、そこまで学校が指導しなければいけないのかと疑問に思うのですが、とにかくそういうふうに見られているんです。

だから、携帯の番号だとかそういうのは気をつけたほうがいいです。

皆さんの不安を和らげたかどうか、はなはだ心もとないのですが、文章を読むのが好きで、その面白さを伝えるのが楽しくて、人間を見るのが好きだということであれば、この仕事は務まると思うので、教育実習は疲れるかもしれないですが、ご健闘を祈ります。頑張ってください。終わります。(拍手)